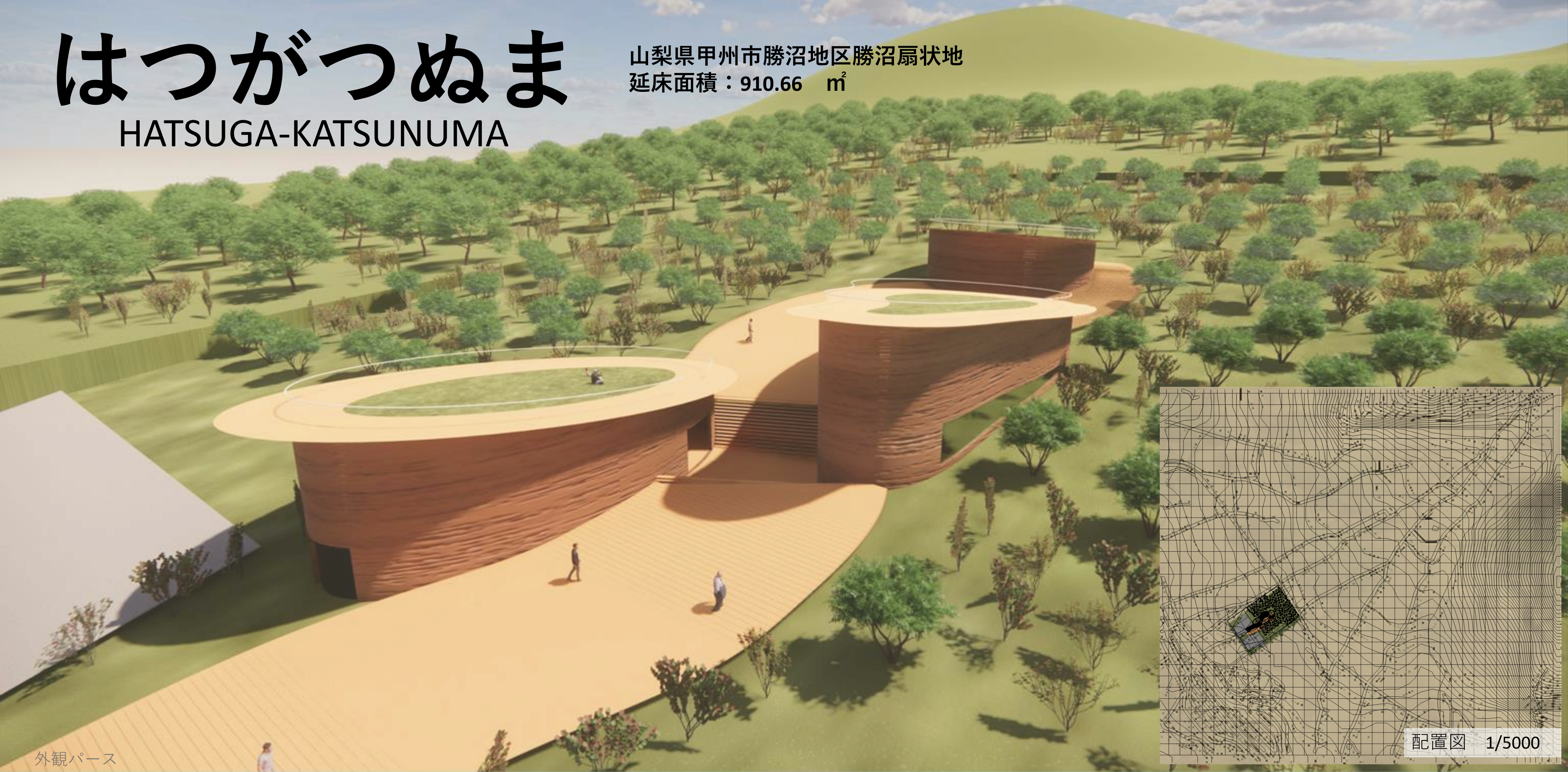


果実の里

はつがつぬま

HATSUGA-KATSUNUMA

山梨県甲州市勝沼地区勝沼扇状地
延床面積：910.66 m²



外観パース



配置図 1/5000

1. Ground Levelを原点として捉える

Ground Levelは標準地盤面の高さです。これから構築される建築物の基準線となり、人間のあらゆる建築的活動の原点として機能します。完成した建築において人々の行為が終着するのをもた、Ground Levelです。GLは我々に発想の起点を与え、物事の始まりを意味する象徴的存在なのです。



高低差を利用することでGLから農園を望むことが出来る。

2. 産業の原点を体験する

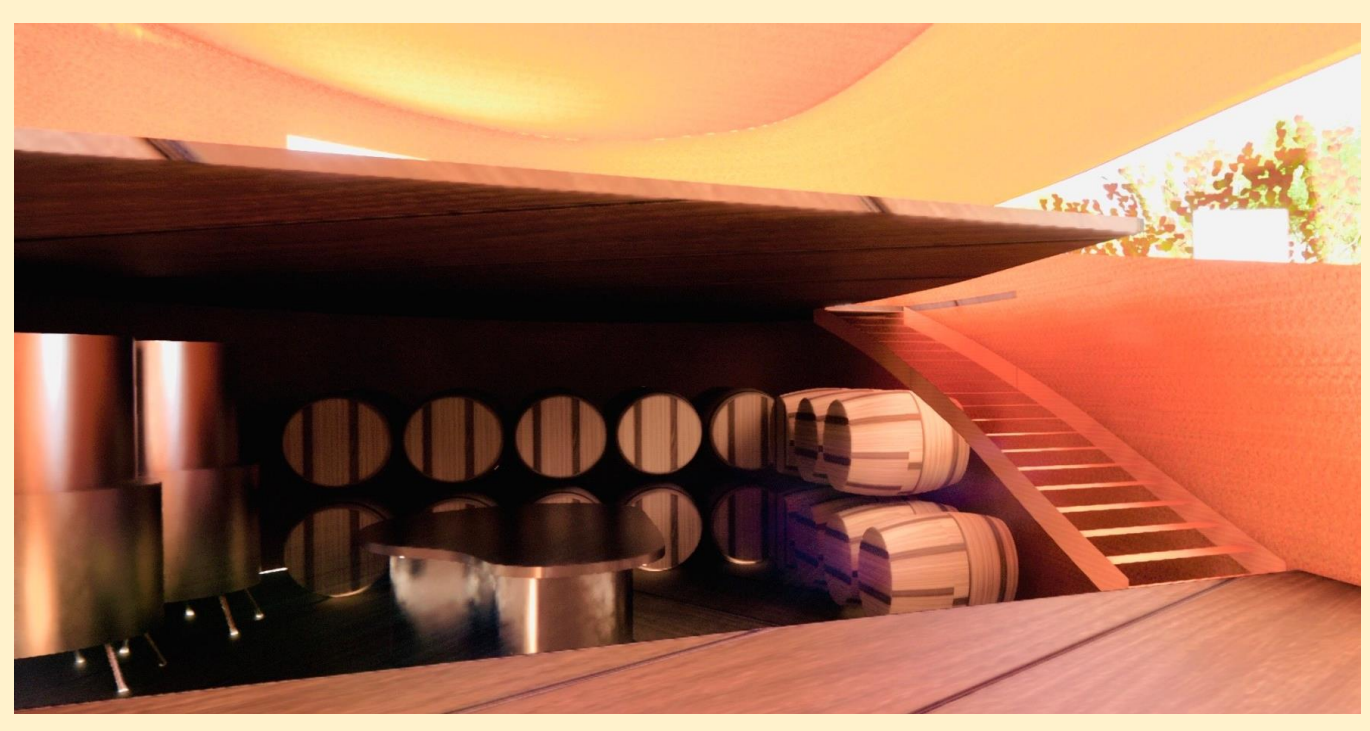
人類が稲作の技術を手にした2700年前から今に至るまで、農業は我々の生活基盤として文明の発展を支えてきました。第一次産業こそが人々の営みの原点であり、工業化の進んだ今こそ体験すべき文化なのです。ここではこの地域の特産品である果実狩り及びそれらのジュースや発酵酒の製造体験が開催されています。特産品を通じた、地域の人々と観光客の豊かなつながりの場所として機能します。



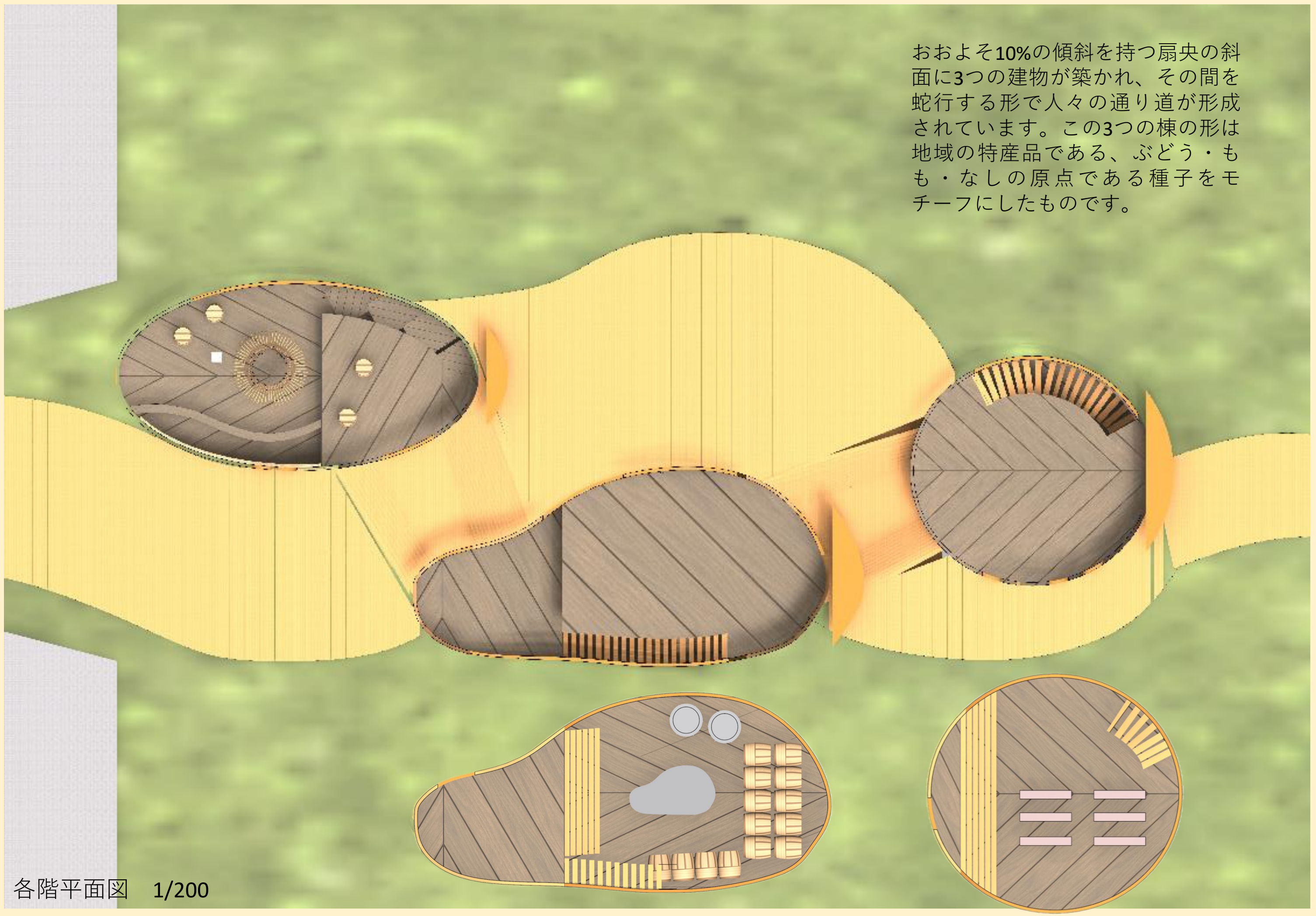
勝沼地区の特産品ぶどう、桃、梨の収穫体験

3. 地域との繋がり と 経済的活性化

併設された果樹園で開催されている果実狩り及びジュースの製造は無料で体験できますが、自分で製造したものは6割の価格で購入することができます。買取を行うことで地域に経済的付加価値を残してもらうことだけでなく、地域と人々の間ではサービス体験と労働力の等価交換が行われ、互いに利得な関係性となることでしょう。



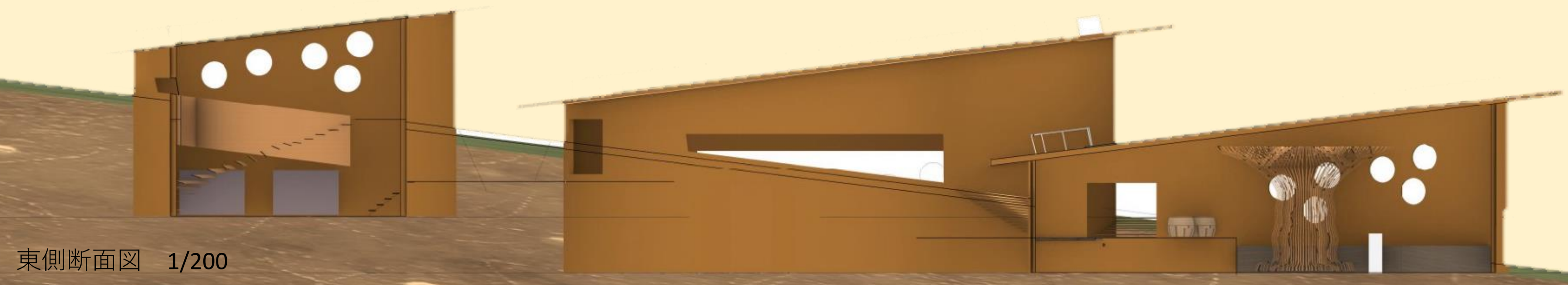
種子が発芽し上へ上へと成長する様子をイメージした柱（写真上）。有機的な曲線は施設の利用者にとって憩いの場となります。
採った果実の醸造体験ができるスペース（写真下）



各階平面図 1/200

おおよそ10%の傾斜を持つ扇形の斜面上に3つの建物が築かれ、その間を蛇行する形で人々の通り道が形成されています。この3つの棟の形は地域の特産品である、ぶどう・もも・なしの原点である種子をモチーフにしたものです。

建物の屋根は傾斜したGLとは勾配を逆にすることで立面にアクセントを持たせていますが、この形状により敷地に入ってきた際、出て行く際に異なる視点やイメージを楽しむことができます。またGL自体を屋根に持つ地下空間は、3つの種子の下を繋げる根のように広がっています。



東側断面図 1/200